# 令和元年度地域教育行政懇談会の開催結果の概要について

## １．議題

（１）ネット・ゲーム依存対策について

（２）教育施策全般（県教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）について

## ２．日程・出席者等

（敬称略）

| 地域<br>日程 | 地域の教育関係者等 | | 市町(学校組合)教育委員会 | |
|---|---|---|---|---|
| | 氏名 | 役職 | 氏名 | 役職 |
| 丸亀・坂綾<br>7 月 17 日<br>（水） | 十河　靖典 | 丸亀市ＰＴＡ連絡協議会会長 | 徳永　秀文 | 丸亀市教育委員会　教育委員 |
| | 久米　啓介 | 坂出市ＰＴＡ連絡協議会会長 | 國重　英二 | 坂出市教育委員会　教育長 |
| | 香川　周伍 | 宇多津町子ども会育成連絡協議会会長 | 中谷　　清 | 宇多津町教育委員会　教育次長 |
| | 角道　純子 | 地域学校協働本部　委員 | | |
| | 福家　啓明 | 綾川町ＰＴＡ連絡協議会会長<br>陶小学校ＰＴＡ会長 | 松井　輝善 | 綾川町教育委員会　教育長 |
| | 仲西　まり | 綾川町ＰＴＡ連絡協議会副会長<br>昭和小学校ＰＴＡ会長 | | |
| 仲善・三観<br>7 月 17 日<br>（水） | 齋藤　雅史 | 善通寺市ＰＴＡ連合会会長 | 森　　正司 | 善通寺市教育委員会　教育長 |
| | 泉　江利子 | 善通寺市子ども会育成連絡協議会会長 | | |
| | 石井　乃満 | 観音寺市 PTA 連絡協議会母親部会副部会長 | 三野　　正 | 観音寺市教育委員会　教育長 |
| | 高橋　直人 | 中部中学校評議員<br>前観音寺市 PTA 連絡協議会　会長 | | |
| | 浪越　邦子 | 仁尾中学校学校運営協議会委員 | 三好　　覚 | 三豊市教育委員会　教育長<br>三豊市観音寺市学校組合教育委員会　教育長 |
| | 小笹　直人 | 琴平町ＰＴＡ連絡協議会会長 | 篠原　好宏 | 琴平町教育委員会　教育長 |
| | 塩野　弘明 | 多度津中学校学校運営協議会委員 | 田尾　　勝 | 多度津町教育委員会　教育長 |
| | 楠原　圭二 | 仲南小学校ＰＴＡ会長 | 三原　一夫 | まんのう町教育委員会　教育長 |

| 地域<br>日程 | 地域の教育関係者等 | | 市町(組合)教育委員会 | |
|---|---|---|---|---|
| | 氏名 | 役職 | 氏名 | 役職 |
| 高松・東讃・小豆<br>7 月 23 日<br><br>（火） | 山田　士郎 | 高松市ＰＴＡ連絡協議会会長 | 藤本　泰雄 | 高松市教育委員会　教育長 |
| | 川田　克治 | 高松市子ども会育成連絡協議会会長 | | |
| | 森田　浩之 | さぬき市ＰＴＡ連絡協議会会長 | 安藤　正倫 | さぬき市教育委員会　教育長 |
| | 栗原　敏旨 | 東かがわ市ＰＴＡ連絡協議会会長 | 竹田　具治 | 東かがわ市教育委員会　教育長 |
| | 諸石　正宣 | 土庄町ＰＴＡ連絡協議会会長 | 岡見　珠美 | 土庄町教育委員会　教育委員 |
| | 片山　和昭 | 小豆島町立図書館館長 | 坂東　民哉 | 小豆島町教育委員会　教育長 |
| | 佐々木　孝 | 安田小学校ＰＴＡ副会長 | | |
| | 植田　真次 | 三木町 PTA 連絡協議会会長 | 森　　正彦 | 三木町教育委員会　教育長 |
| | 田中　健二 | 三木町教育委員会事務点検評価委員 | | |
| | 小倉　勇介 | 直島中学校教頭 | 鴨井　俊徳 | 直島町教育委員会　教育長 |
| | 橋本　康裕 | 直島小学校教頭 | | |

## ３．地域教育行政懇談会の議題に関する意見の概要

### ネット・ゲーム依存対策について

○　ＰＴＡ安全スマホ宣言を策定したが、このような取組みは、作った後のフォローが重要である。予防対策については、子ども自身が自覚するように進めなければならないとの考えから、夏休みにポスターの宿題なども実施している。また、スマホサミットのような、子どもたちが集まり、討議をし、発表しあうような取組みを香川県で実施することも有効であると考えている。

家庭でのルールについても、作った後にどうやって守らせるかまで啓発していく必要がある。叱る、取り上げるだけではなく、子どもの気持ちも理解した上で教えていくことが大切だと考えている。

○　保護者もスマートフォンの使い方などを理解することが重要である。依存傾向の子どもに対しては、取り上げた後の反発についても考えなければならないため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携についても工夫が必要である。情報モラルに関する教育も必要であると考えている。

○　ゲームや動画は、依存しやすいように作られている。対策を進めるにあたっては、保護者や教員も、実際に使ってみて、内容を知る必要がある。保護者を対象とした調査にスマートフォンの使用実態や持たせたきっかけなどについても加え、保護者が子どもへ与える影響について分析してほしい。

○　子どもが一人で過ごす時間が増えている中では、ネットを使用する時間が増加するのは必然のように感じる。ネット・ゲーム依存対策に限らず、家庭教育の大切さなど、根本的なところを変えていく必要がある。

○　親子のルールについては、保護者側もルールを守らないと子どもも守らない。また、スポーツや地域活動への参加など、ネットでは経験できない現実の活動の魅力を子どもに教えていく必要がある。

○　家庭でのルールづくりが重要であり、小中高それぞれ子どもの発達段階に応じたルールにしていく必要がある。作ったルールを守らせていくためには、日ごろからの親子の会話が重要であると考えている。

○　保護者自身が子どもに対してどのように教えていけばいいか分からないこともあるため、フィルタリングによる制限の仕方など、保護者も知識を身につけていかなければならない。幼児の保護者向けの啓発についても充実させてほしい。
○　スマートフォンを持つことでかかるお金についても子どもに教えていく必要がある。
○　高校までは持たせない、という社会全体での雰囲気作りも必要ではないかと考えている。
○　子どもには、スマートフォン等に生活が振り回されるのではなく、上手く使いこなせるようになってほしい。
○　使い方を子どもに教える、制限をかける等の環境をつくって子どもを守っていくことが必要である。また、スマートフォン等はコミュニケーションツールになっているため、友達同士のコミュニケーションの仕方や情報モラルなどについて、社会に出て誤った使い方をしないように学校でも教える取組みを進めてほしい。
○　現実社会が充実していればネット依存にはならない、という講演を聞いた。子どもが何かに夢中になれるような環境をつくっていかなければならない。また、相談体制については、子どもだけではなく、保護者からの相談にも応じられる体制を確立すべきと考えている。
○　学級活動でネット依存を取り上げ、話し合った。使用する場所や時間、ルールをきちんと作る、親の見えるところで使用する、などの対策を子ども自身が導き出した。
○　ネット・ゲーム依存対策について成果の出た事例などがあれば、共有するようにしてほしい。
○　子どもと保護者が一緒になって参加できる勉強会などを充実させてほしい。
○　保護者への啓発については、参加してほしいと思う保護者ほど参加してくれない、という状況がある。そういった保護者に対して、どのように啓発していくかが今後の課題であると考えている。
○　幼児教育については、スマートフォン等の機器よりも、読み聞かせをして絵本の楽しさなどを教えていく環境づくりに取り組んでほしい。
○　保護者への啓発については、依存による脳への影響など、医学的なデータも示していけば、危機感を持つようになるのではないかと考えている。
○　アンケート調査をした結果、県の調査と同様にスマートフォン等の所有率は高く、利用目的は、動画やゲームが中心となっている。現状に対して学校も危機意識は高く、対策として学校保健委員会での児童自身による発表や、講演会をするなどの対応は進めている。対策にあたっては、子ども自身が納得するように進めていかなければ浸透しない。
○　学校や行政での対策にも限界はあり、各家庭での取組みが重要になってくる。子どもが安全に遊べる場所が少なくなってきており、子ども同士が集まって交流し、発想力の向上につながる遊びができる場所をどのように確保していくかが課題である。
○　中学校では、保護者が全員参加する会を使って、「ゲームと学力の関係」、「各家庭でのルールづくり」などについて保護者へ周知した。ネットの中ではなく、学校生活など現実の世界で、友達とつながる機会や、楽しい経験をする企画を大切にしていくべきと考えている。

## 教育施策全般（教育委員会の事務の管理・執行の状況の点検・評価）

### （学力・社会教育等）

○　プログラミング教育は、材料のいらない物づくりであると考えている。子ども自身が試行錯誤しながら作り上げていくことは、良い教材の一つである。論理的思考の醸成などにも非常に重要になってくる。子どもに興味を持たせるためにも、教員の指導力を向上させる必要がある。

○　英語教育については、幼児や小学校低学年など、早い段階から英語に触れる機会を充実させてほしい。教科化に当たっては、市町ごとに格差が生じないようにしなければならない。
○　英語教育において、小・中学校が一体になった取組みは非常に大切である。
○　子どもにとって、コミュニケーションの基本となるのは国語であり、また、すべての学びの基礎である。国語力の向上についても着実に実施する必要がある。
○　中学校になると、テスト等が非常に多いが、何を間違ったかを確認したり、振り返りを何度も行ったりすることが、学力の定着には重要である。
○　子どもが減少している中で、学校では部活動の継続が困難な状況もあると思う。子どもがやりたいスポーツや文化活動に触れられる環境を整備してほしい。
○　少人数で子どもたちの顔を見ながらきめ細かな指導を継続していく香川型教育は非常に重要である。
○　ベテラン教員の大量退職に伴い、教育力の低下が心配される。若手教員の教育力向上が急務である。
○　読書は読解力や想像力の向上、こころの育成など、子どもにとって非常に大切な教育である。学校司書を配置する取組みをしてほしい。
○　「いのちのせんせい派遣事業」は非常に良い取組みであり、継続してほしい。
○　地域との関わり、社会体験などの施策を充実させ、保護者や教員以外の大人と接する機会を増やしていくことが必要である。
○　地域で子どもを育てるということが大切であり、ＰＴＡ、子ども会など地域で連携、役割分担しながら進めていくことが必要である。
○　ボランティア活動で子どもと接することで、香川県の子どもの良さが理解できている。保護者もボランティア活動を通じて、より子どもへの理解が進むのではないかと考えている。

**（働き方改革）**

○　教員が多忙な状態で、教員に余裕がないことから、児童生徒にもしわ寄せがいっていないか心配である。教員の勤務時間の縮減も含めた働き方改革については、教員自身の意識改革も含めて進めていかなければならない。
○　学校外での活動などにより、子どもも忙しく、「自ら考える」ことができない状態になっている。
○　教員の志望者が減少していると思うが、教員自身が誇らしく働ける環境をつくっていかなければならない。

**（点検・評価について）**

○　「香川県教育基本計画」については、より県民に見てもらえるよう、冊子の見せ方の工夫も含め、変えていく必要がある。
○　数値目標について、パーセンテージで評価している項目については、数字だけではなく、その中身についてもよく分析する必要がある。
○　不登校の児童生徒については、ネット依存との相関についても調査を検討してほしい。要因を分析し、ネット依存傾向の子どもを増やさない取組みをする必要がある。
○　不登校の児童生徒については、D評価となっているが、全国平均よりは少ない状態を維持している。そのほかの指標についても、前年度比だけではなく、全国の中での位置づけも見る必要がある。